

教務だより

2011年8月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

考えるより行動するとき…。

茗溪塾塾長 宇野 雅春

なでしこジャパンがワールドカップで優勝したというニュースは、日本人にとっては久々の大きな感動でした。優勝した試合も粘りに粘り、最後にPK戦で勝利という肉薄した試合内容でしたが、そこに至るまでの、男子リーグとは全く違う厳しい経営状況下での選手たちの苦勞に驚かされます。優勝前のなでしこリーグというのは1試合当たりの観客動員数が500名にも満たなかったといえます。優勝して世界一となり、リーグの動員数もいきなり1万8000名に膨らんだというのも、まるで、おとぎ話のような実話です。しかも、国民栄誉賞が与えられる…とにかく感慨深いものがあります。「報酬に応じて働く」という従来の考えを大きく変える出来事であったと思います。

栄光の前に、約束された報酬が先にあるのではなく、ただひたすら苦勞があり、だからこそ工夫し頑張れた「何か」があったのではないかと「先の見えない努力」という物に、結局どんな人も支配されているように思います。繰り返される毎日を、辛く感じた時、どんなに意志の強い人でも多分「やめたい…やめて楽になりたい」と思うのではないかと？

でも、実は「先の見えない毎日」というのは、成功する時には必ずあることなのだと確信するようになりました。どうやってそこを耐え抜くのが勝負だと思ふのです。

人生には、考えるときと行動する時が交互に訪れます。自分の大切な人生ですから考えるときは、本当に真剣に考え続けなくてはなりません。また行動するときは、わき目も振らず、やり続ける必要があります。「受験」もまたしかりです。

ただし、人間の悪い癖で、やることが多くなればなるほど、「考える」ということに気持ちが引きこまれていきます。「このままでいいのだろうか?」「もっと違うやり方があるのではないかと?」などというようにです。受験勉強の時なら、成績が上がらないとすぐ周りのせいにする人がいます。「もっと分かるやり方があるのではないかと?」そして悩むわけですが、こんな思考の落とし穴なところに入り込んでしまった生徒で、成績が上がる生徒はいません。結局は、状況から逃げてなんとか楽な道を考えているにすぎないからです。こういう人ほど、みんなが行動するときに考えていて、みんなが考えている時は、何か違うことに夢中で、全く考えていなかったりします。(自分のことを振り返っても思い当たることは多々あります。) ボタンの掛け違いのように悪循環は続き、ついに受験は失敗します。わかりやすく整理すると、受験学年は今は「行動する時」です。寸暇を惜しんで一つでも二つでもわかることを増やしていくべき時にいます。

逆に、それ以外の受験前学年の生徒は、「考えるべき時」にいます。将来のこと、自分の適性、考えなければならないことはたくさんあります。でも、すぐ結論がでることでもありません。完全な答えを導くために少しずつ前に進む必要があります。その一步一步にその時々「受験」があります。そして、その都度受験に向けた準備が必要になります。

考えがまだはっきりと定まらないうちに、行動する時期が来るのです。でもこれは仕方のないことです。考えては行動し、行動しながら考えて…という具合です。行動するときはつらいことも覚悟でひたすらやりきる「行動力」が大切になります。小6、中3、高3の受験生の諸君は今行動の時期です。あれこれ考えて勉強からそれるのは、後で後悔します。まずはとりかかり、やれるだけのことをやることで違う自分の可能性が見えてくるものです。大震災以来、厳しい世の中の現実が、よりくっきりと見えてきています。円高や国際紛争…激動する世界はまだまだ続くと思われまふ。放射能で揺れ動く日本。こんなときは自分を見失わないことが大切になります。どんなささやかな成功も、つらく長い努力で叶うということをも身を持って知ることが、大切なことに思えてなりません。